

うきうき レンズ

スポーツで人間教育 JFAアカデミー設立に向けて



意見交換をしたパネルディスカッション

姉妹2人で200歳！ 長寿合同祝賀会

小川町新田出の廣瀬ハツエさんと米村ツギエさん姉妹の長寿を祝う合同祝賀会が、2月17日、松橋ホワイトパレスであり、それぞれの子、孫、ひ孫、玄孫など親族約70人が集まりました。

お二人は6人きょうだいの長女と二女。ハツエさんは今年で101歳、ツギエさんは99歳を迎えます。この日は、ツギエさんの長女（ミヨ子さん）の喜寿と併せてのお祝いとなりました。

ハツエさんは、毎日の炊事や草取りなどをこなし、足腰が丈夫で、地元の体育祭では紅白玉投げにも参加するほど。ツギエさんは、若いころから詩吟をたしなみ、「腹の底から声を出す詩吟は、よか運動にもなり、ストレス解消になります」と、この日も見事な「菅原道真」を披露しました。

会場からは「これからも健康長寿に過ぎて、姉妹長寿の新記録をつくってほしい」と大きな拍手が起こりました。



長寿の秘けつは好き嫌いなく何でも食べることだそうです

日本サッカー協会（JFA）が提唱する「JFAアカデミー」の設立に向けての「スポーツを通じたエリート教育について考えるフォーラム2008」が、2月17日、小川総合文化センター・ラポートで開かれ、約450人の参加がありました。

第1部では、JFA専務理事の田嶋幸三さん（荅北町出身）が、「エリート教育が日本の教育を変える～熊本から世界へ～」と題して基調講演。「世界基準の選手育成にはアカデミーは必須。サッカー技術だけでなく、自己判断能力、論理的思考、語学力などを教え、社会に貢献する真の国際エリートを育てる」と強調しました。

第2部では、田嶋さん、阿曾田清市長、県サッカー協会の井薫さん、熊本大学准教授の後藤貴浩さん、ロアッソ熊本監督の池谷友良さんによる「熊本から世界を目指そう」と題してのパネルディスカッションがあり、アカデミーの意義や地域への波及効果、選手育成への期待などについて語り合われました。

モノもイベントも盛りだくさん 松橋初市が開催



たくさんのお買い物客でにぎわいました

2月23日～24日、松橋町の本町・栄町商店街一帯で恒例の「松橋初市」が開催されました。

23日には、昨年6月から松橋公民館の講座で「宇賀岳鬼岩太鼓」の指導を受けてきた子どもたちが太鼓演奏を披露。観客から大きな拍手が送られていました。

会場となった商店街は2日間とも歩行者天国となり、米飴や植木の苗・松橋養護学校作業製品・特産品などの露店が立ち並び、買い物客でにぎわっていました。

また、栄町通りのステージで行われた「宇賀岳鬼岩太鼓」・「不知火龍灯太鼓」・秀岳館高校「雅太鼓」・「いきなりだご一座」の公演のほか、カラオケ大会やライブなども行われ、多くの見物客を楽しませていました。



除幕式が行われた「まちなか研究室 ひまわり」のオープニングセレモニー

吉岡孝、栄子さん夫妻 熊本県野菜経営コンクールで 最優秀賞

2月13日に開催された第49回熊本県野菜振興大会において、小川町北海東の吉岡隆・栄子さん夫妻が、熊本県野菜経営コンクールの会長賞である最優秀賞・農林水産大臣賞・熊本県賞を受賞しました。

吉岡さんは、果樹（八朔）から生姜栽培への転換、土地基盤整備事業による圃場の集約、計画的な機械導入などにより作業の省力化に努めています。また、減農薬・減化学肥料の特別栽培による高品質・高付加価値生産を図るとともに、栽培履歴の記帳や、複式簿記により経営の改善・安定に取り組んでいることが高く評価され、受賞となりました。



県農業コンクール個別経営部門特別賞とのダブル受賞になりました。

地域の人材、特産品発掘へ まちなか研究室 ひまわりオープン

2月15日、市と崇城大学の連携による街づくり拠点施設「まちなか研究室 ひまわり」が不知火町商店街にオープン。関係者約50人が参加して除幕式がありました。

研究室では、地元の農家や商業関係者と崇城大学の学生、地域の住民が一体となって特産品の開発や販路発掘、人材育成などを進めていきます。市では、地元住民と黒砂糖（三角町）やトマトジュース（豊野町）などの試作に取り組んでおり、旧5町ごとに新たな特産品を作り出す予定です。運営は市民を含めた「ひまわりの会」が運営。3月3日には、インターネットカフェも併設し、パソコン教室も開かれました。

優雅に飛翔 小川大風復活



揚がった、揚がった！大風が、宙に舞った瞬間

2月15日、観音山総合運動公園グラウンドで、小川風の初飛行が行われました。

江戸時代から伝わり、県伝統的工芸品の指定を受けている小川風は、昨年、町の歴史を見直そうと、市教育委員会小川分室と小川風保存会（上野春義会長）が町史などの文献をたよりに製作しました。交差した2本の竹の上に連磨（だるま）絵の紙を張った風の大きさは約4.5畳、あしを含めると8メートルほどですが、持ち運びできるよう分解し、組み立てることができます。

この日は、ほどよい風が助力となり、元気良く泳ぎ回る姿に大きな歓声が上がりました。